

企業名： SUBARU

レポート名： 統合レポート 2021

### 1. この会社が目指す姿が理解できるか

会社のありたい姿として掲げる「笑顔を作る会社」と、その達成のための提供価値である「安心とゆしさ」、これらの土台となる経営理念の、「“お客様第一”を基軸に『存在感と魅力ある企業』を目指す」という三つのモットーのもと、統合報告書全体を通して首尾一貫した説明がなされている。

STEP と題したおよそ 10 年程度の中期目標については、達成のための戦略や収益イメージが詳しく書かれており、数年間かけて SUBARU が目指す姿が理解できた。しかし、数十年後に目指す姿についての説明はあまりなされていなかった。この企業に入社すれば 40 年 50 年後までここで働くことになる学生にとっては、もう少し長期の目標を知りたいという思いがあるはず。

### 2. この会社の競争優位性が理解できるか

同業他社と比べて企業規模が小さいという点を意識した戦略を「SUBARU らしさ」、「Different な存在」や「選択と集中」といった言葉を用いて表現しており、SUBARU の強みが理解できる。

また、SUBARU は前身が中島飛行機であることから自動車産業だけでなく航空宇宙産業も展開している。航空宇宙産業と自動車産業を結び付けている点も「SUBARU らしさ」を生んでいる要因の一つであるといえる。航空宇宙産業で求められる高いレベルでの安全性を自動車産業にも生かしていくことなどは、2つの産業で事業を展開している SUBARU ならではの戦略であるといえるだろう。統合レポートでは安全性に関する部分に多くのページが使われており、その方針をよく理解することができた。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

統合レポートから、2030 年までに死亡交通事故ゼロを目指すという目標を掲げていることや、安全性を高めるための部品の開発が進んでいることが見て取れる。安全を重視する SUBARU の戦略は、自動運転技術の発達に伴い安全性がますます重要視されると思われるこの先の自動車産業において強みとなるだろう。近年、若者の「車離れ」が進んでいることを踏まえると「選択と集中」という経営戦略は、変わりゆく自動車産業において意味のあるものになるだろう。様々な面での「選択と集中」について随所で図表を用いながら分かりやすく示されていたと感じた。加えて SDGs に関する取り組みも書かれており、そのことから持続性を意識した経営を進めていることが伝わってきた。

#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

人的資本を「人財」と表現し、従業員のスキルアップが企業の価値向上につながるという考えのもと、従業員の「個の成長」を目指すことや、多様な人財活用をすることなどが掲げられている。多様な人財活用については、女性従業員の割合や障害者の雇用状況などが表を用いて示されており理解することができたが、人財育成のために行っている研修や教育に関しては、理念や目的は多く書かれている一方、内容が深く書かれておらず、不明瞭な部分も多かった。この企業に入社したとき自分のスキルアップを達成することができるかどうか判断するだけの情報がなかったように感じた。

#### 5. 報告書にはどのような改善余地があるか

長期目標についてもっと詳しく説明してあると将来性に対する評価が高まるのではないかと感じた。入社後の従業員のスキルアップの内容についても、実際に研修を受けた方の声などを通してその経験が社内で活かされた体験を載せるなど、より具体的な情報があった方がこれから就職活動を迎える学生としては、企業と自分の数十年後の姿について、できるだけ詳しくイメージでき、企業のイメージアップにつながると思う。